

松山収容所のポーランド人捕虜問題

100781185 小山内義貴

1.ポーランド人捕虜の特殊性

(a)捕虜に対して平等の接遇

→ 当時の日本では当然の思考

(b)ポーランド人に対しては特別



特別な収容所の設置、政治的支援など

2.ヨーロッパにおける日波交渉

(1)日露戦争時の日波関係

1940年2月:日本大使館を

ストックホルムに開設

明石元二郎:スウェーデン公使館付

として駐在

→ロシアに近いところで

敵の情報収集の為

敵の情報収集

自力では不可能



ロマン・ドフモスキを紹介
→波瀾国民同盟の指導者



フィンランドもポーランドに同調



(2)ポーランド社会党

(a)ロシアの圧政から祖国の解放が目的

国民同盟：民族統一の達成が目的

**社会党：社会主義的要素の
急進的な路線の探求**

(b) 社会党の4つの提案

(i) 亡命ポーランド人部隊の編成

(ii) ポーランド兵へ反ロシア的冊子の配布

(iii) ポーランド兵の日本軍への投降

(iv) シベリア鉄道破壊

→ポーランド人の戦場への出動拒否の為

その他；ポーランド人の通訳の必要性など

(C)社会党の真の狙い

表面上；捕虜問題の関与を準備

実際；日本から資金援助の引き出し

→ポーランドの武装蜂起の為



ユーゼフ・ピウスツキの来日が決定

→日本側が資金援助に前向きの為

3. 日本でのドモフスキとピウスツキ

(a) ドモフスキ

(i) 鴨緑江の戦い(5月1日)

捕虜中のポーランド人は60人程度

→ポーランド人投降者の人数把握の為



投降喚起の為のパンフレット作成

(ii) **ダグラスを訪問**

日本政府の声明文の草案作成

→ポーランド兵に投降喚起の為



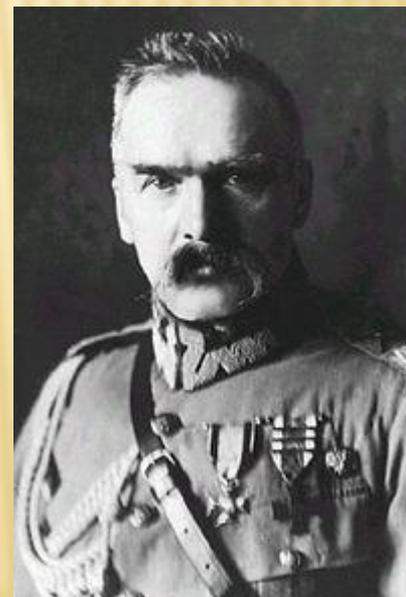
ドモフスキは投降計画に精力的

(B)ピウスツキ

ドモフスキと部屋で会談
→武装蜂起の討論→意見は平行線



二人共、別個に日本政府へ
意見を提出



(C)結果

参謀本部；武装蜂起の資金を
社会党に不提供

→ドモフスキの主張



ピウスツキは日本を撤退

4.松山のポーランド人捕虜

(a)カトリック教徒とユダヤ教徒收容の
捕虜收容施設を訪問(ダグラス)

→一人一人面接を実行



(B)面接内容

姓名、出身地、所属部隊とその所在地
ロシア軍での服役年限、識字力
捕虜となった日時、場所など、



ポーランド・ユダヤ人共に脱走兵を確認

(C)脱走の原因

(i)収容所の庭の敷地

→リラックス不可能

(ii)仕事の有無

→本国では相応の職業に就職の為

(iii)周囲の散歩の機会の有無

(iv)石鹼と下着の有無

(D)ダグラスの面接の目的

(i)捕虜の実態調査

(ii)ポーランド人捕虜への良好な待遇の維持

→問題点の改善

(iii)面接内容は日本側の報告書に不記述

→社会党の宣伝の為

5.ポーランド人捕虜問題の結末

(i)ポーランド人が何人も収容所から脱出

(ii)通関手続きなしで出国

→日本政府が陰で亡命を黙認



日本のポーランド人捕虜への
対応が非常に好意的

おわり